

【教育長賞】みんなと過ごした給食の時間

丈山小学校 山口 幹太

ぼくは給食が大好きです。

なぜなら、毎回給食はおいしいし、時々で新しいメニューが並んでいるのを見ると、どんな味があるか、楽しくなります。

そんな給食が大好きなぼくの給食の思い出を三つしようかいします。

みんなと食べた給食について思いうかべると、一番に思うかぶのは、牛乳かんぱい！です。

今のぼくのクラスでは、クラスみんなで行う行事、レクや、クラスが団結した日の給食は、みんなで机を丸く大きな円にして、みんなで牛乳を持ち、かんぱいをします。

いつもは牛乳のきらいな人が多くて、牛乳があまつていいるけど、かんぱいをした日の牛乳はほとんど残りません。

ぼくは牛乳がすきなので牛乳が残っているのを見ると、悲しいです。でも、かんぱいをした日の牛乳はほとんどあまらないのでとてもうれしいです。

ぼくは、三年生の時、牛乳を二本飲んだらおなかをこわしてしまったので、本当はもつと飲みたいけど、いつも一本にしています。

二つ目は、しつかり味わえない給食です。ぼくは、前期放送委員なので、当番の日は給食を放送室へ持つていき、放送前に食べ終えます。当番の日はいつもきんちょうしています。

放送を始める時間が決まっているので、急いで給食を食べないといけません。

いつものように、おいしいなあと、幸せーと思つて食べていると、とても間にあいません。

きんちょうしているので、いつもどちがう給食の味がします。

食べる時、おいしいと思うけれど、おいしいという気持ちにひたつてはいけません。

でもそんな急いで給食を食べている時、おいしいで給食はがんばれとはげましてくれているようですがします。

三つ目は給食当番です。

ぼくは給食当番が四年生の時まで少し苦手でした。なぜかというと、クラスのみんなが食べる給食をぼくが運んだり皿に入れたりするのはとてもきんちょうするからです。

でも五、六年生になると、給食当番を少し自信を持つて、仕事ができるようになります。そうなれば理由は、友達ががんばつていてるのを見たからです。

ぼくの友達が足のけがをしてるのに、しつかりと当番の仕事をしているのを見て、すごいなあ。と思いました。

いましだ。ぼくもしつかりと給食当番の仕事をしないといけないと思いました。失敗するかもしれないけど六年最後までがんばります。

いつもおいしい給食をありがとうございます。給食であげパンを食べてみたかったです。